

会議記録

1. ここまでの経過説明：

- ・6月9日～7月8日 パブリックコメント実施
- ・7月18日～8月18日 議会条項について、パブリックコメント実施
- ・当初予定していた9月議会への上程を見送り、12月議会へ議会条項を盛り込んだ素案を上程する
- ・今後はまちづくり懇談会で説明し、意見を伺い、修正すべき点はする
- ・その後、12月議会へ上程 4月1日施行を目指す

2. パブリックコメントについて：

(室長)

- ・意見に対する回答の公開について、町長、議員個人等への個人的な批判、条例とあまり関係ない意見等公開できないと判断されるものについては、非公開とさせていただく。投稿者の個人が特定されるような意見については、要約しながら公開している。
- ・ご意見のまとめについて、まちづくりの在り方や方向性など、その根本を否定するものではなく、大枠は町民の皆様のご理解いただいたと受け止めている。説明不足であるのご意見はあり、どの程度説明すればよいか計り知れないところはあるが、まちづくり懇談会も含めて今後も説明していく。自治組織の加入未加入のご意見も多く、自治組織そのものを問うご意見、事業の量について問うご意見も多かった。自治組織そのものの問題については、今回、問題提起をいただいたと受け止め、町としては早期に研究して答えを出したいと考えている。検討する機関を設置することも考えている。その他、議会条項が空欄であることへの批判もあった。
- ・まちづくり基本条例において、町民参加条例の内容（自治組織）はごく一部分であるが、結果として町民の皆さまにはこの点に一番関心があった。町としては、この部分についてまちづくり懇談会で説明を行う。
- ・条例案の公開の方法について、隣組回覧であることに対し、十分読むことが出来ないなどのご意見もいただいた。今後は今回の反省を踏まえ、全戸配布をする。足りない部分は懇談会できちんと説明する。
- ・上記について：
 - ・(メンバー) 自治会への加入の強制は、これまでの判例等により、はっきり「だめ」だと言ってしまっただけでは、そうすればもっと前向きなことに検討ができるのでは。
 - ・(室長) パブリックコメントの回答の中にもその旨掲載している。世の中には、転入＝自動的に加入と

いった所もある。また負担は全部町というところもある。年間7区へ町が出しているお金は、公民館と併せて1500万円となり、区費を集めることの検討も必要。

3. 今回のご意見をもとに修正した素案について：

(室長)

1条 (7) 趣味の団体は含まれないのかといったご意見もあり、赤字のとおり修正。

(8) 議会での議論の過程も踏まえ、地域について定義をさせていただいた。社会的な空間でもあり、見た目もある。4ページ解説のとおり。活動している空間を地域としている。

4条 国籍について、外国人を参政権の対象としないほうが良いといったご意見があった。ただ、町としてはこの町に住んでいる以上、まちづくりに参加する権利や受益を負うべきとした。解説のとおり。

5条 「公平」の文言については、ご意見の「等しく」に統一した。

6条 12条と同じ文言があったため、6条では主体的、12条では自らの発言及び行動に責任を持つといった表現とした。もしご意見があればいただきたい。

13条 本文に「金銭負担を」という声もあったが、解説で掲載することとした。

(室長) まだまだ素案の段階。「地域」の説明などはいかがか。

(メンバー) 地域について、「生活圏」という言葉はどうか。行政的な区割りではなく、土地的な区割りではなく、「生活圏」。

(室長) 全体通していかがか。

(メンバー) 第一法規の校正は行うのか。

(室長) 表現がわかりづらくなる可能性はあるが、今後行う予定である。表現内容については、出来上がったものを見ながら判断する。

(メンバー) 「ですます」は適切ではないかもしれない。町としてきちんとすべきではある。日本語では仕方がないことだが、煙に巻くことがある。表現が難しくなっても仕方がないのでは。

(メンバー) 今までが特殊であり、今後はわかりやすい表現でいいのではないか。わかりづらい最たるものは憲法である。

(室長) 地域については、あくまでも土地の区画ではないということで、表現を工夫する。

(メンバー) ここを上手にとらえていけば、近隣町村とのつながり方も意識していくことにつながるのではないか。

(メンバー) 松川町では、ガソリンを入れてもマー君ポイントが付き、それで納税ができるシステムである。高森町では活気アップ商品券をもらっても使用店舗は限られ、無理やり使っている現状がある。マー君ポイントだったら、それで納税ができ、滞納者はそれで払うことができる。福引ひとつとっても、松川の商工会では、例え末等であってもものを選ぶことができる。ただティッシュを渡されることと比べても満足度が全然違うのではないか。

(室長) 観光うあプロモーションは、高森の企画にとって一番の課題といえる。1年程度で改革したい。

4. 今後の予定について：

(室長)

- あったかもりプロジェクトは、土地利用を除いて、一区切り。基本計画については、体系は決まったものの、その内容についてはまだまだ検討していく。人口減少のことや、やることはばかりでなくやめることの検討(＝行財政改革の検討)も行っていく。基本計画書の完成は12月を目途に考えている。
- 「みんなでつくるあったかもり」では、チーム分けはしたが、一体化してやってきた経過がある。10月から土地利用計画に入っていくが、もしメンバーとして加わっていただければありがたい。1年で終わらないかもしれない。高森町の土地は、どこをとっても宅地でも農地でも商業地でも可のところがあつた。人の権利にかかわることを話す必要があり、都市計画区域にも踏み込む。いろんな皆様のご意見を聞きながら、農業委員とも話をしながら、ここがベストという計画を作りたい。土地利用計画策定に加わっていただけるかどうか、後日希望をとらせていただく。具体的な進め方については、まだどう進めるかきままつていない。

(メンバー) 土地利用は夢ではなく、専門的な計画である。素人が入つて大丈夫か。

(室長) 専門業者を入れる予定。ただその土地のことを知っている人が一人でもいるほうがよい。きちんとした結論に持つていくのは、当然町の仕事であるが、ご意見はできるだけ多くの方にいただきたい。線引きが難しいといった問題もあるが、ぜひ参加していただき、議論を深めていただきたい。新たにメンバーを募集することは考えていない。

(メンバー) 土地利用の前段である「こんないいとこあつたかもり」では、過去ばかりを振り返る傾向にあつた。プレハブはよくないなどの意見に傾く恐れも。「守る」というが、「これからを作つていく」必要がある。

(室長) このチームでも堅実的な意見をいただいた。

(メンバー) 最初の大雑把なところではいい意見が出るかもしれないが、結局何も変わらない恐れもある。どうやめていくか、既得権をどう手放すかなど、検討していくことが求められる。行政は新しいことが苦手、継続は完璧、やめることが下手といったところがある。

(室長) これまで関わつてきた経過があると、なかなかやめられないといったこともあつた。当町は財政的にも豊かではないため、どこかで踏ん切りが必要。